

「古典文法器」使用說明書



このたびは、「古典文法器」をご購入いただきまして、ありがとうございます。
安全に正しくご使用いただくために、必ずお読みください。

重 要

使用上の注意 使用前に必ずお読みください。

注意



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容
および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



保管注意

❗ 火気の付近や高温になる暖房機の付近に置かないこと。変形して使用できないことが
あります。

❗ 幼児の手の届かないところに置くこと。 けがの原因となることがあります。



使用注意

❗ **ホワイトボード用マーカーを使用すること。**

油性マーカーを使用すると消せなくなることがあります。

❗ 操作をするときには、製品の近くにいる人にぶつけないように注意して使用すること。

❗ 製品に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと。破損の原因となることがあります。

❗ ベンゼン・シンナー・ラッカーの溶剤や油類を使用しないこと。変形破損の原因となります。

❗ プレートを突起物や角のあるものの上に置かないこと。変形破損の原因となります。

内容物

ガイド枠 1組

白色プレート1枚 黄色プレート1枚 青色プレート1枚
桃色プレート1枚 緑色プレート1枚 橙色プレート1枚

製品情報

ガイド枠	アクリル樹脂・マグネットシート	523 mm × 100 mm	
プレート	塩ビ基材・塩ビシート印刷	460 mm × 123 mm	0.6 mm
	オーバークラミネート ペット樹脂	フッ素コーティング	57 g 250 g

「古典文法器」を使用する学習指導のねらい。

- 古典文法において助動詞・助詞が接続する活用形が決まっていることを理解させる。
- 誤りやすい語句を接続にもとづいて識別し、古典の理解を確かなものにする。
- 敬語の並び順が決まっていることを理解させる。
- 漢文書き下し文も古典文法の助動詞・助詞の接続に基づいていることを理解させる。

この教具は、助動詞・助詞が主などの活用形に接続するかを色であらわし、図式化したものです。次の図は、接続関係を示した活用表です。

助動詞・助詞の接続

		四段已然形に接続			体言連体形に接続						終止形に接続 <small>ラ変型には連体形に接続</small>						連用形に接続						未然形に接続														
		基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	ごとし	たり	なり	らし	らむ	めり	まじ	べし	なり	けむ	き	けり	つたり	ぬ	たし	まし	じ	むず	む	ず	り	まほし	らる	る	しむ	さす	す		
		基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(ま)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
助詞の接続	なばでは むや																																				
	てにしが しかな																																				
助動詞の接続	そなつて がら																																				
	となや 「も と																																				
	連あ 体と																																				
	ばども 確定																																				

「古典文法器」は活用を横向きに表示し、接続関係を色で示した教具です。

活用表 横タイプ

助動詞

白色は自立語（動詞・形容詞・形容動詞など）
黄色は未然形接続の助動詞と助詞
青色は連用形接続の助動詞と助詞
桃色は終止形接続の助動詞と助詞
緑色は連体形接続の助動詞と助詞
橙色は已然形接続の助動詞と助詞

未然形に接続						基本形
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
せよ	すれ	する	す	せ	せ	す
させよ	させ	させる	させ	させ	させ	させ
しめよ	しめ	しむる	しむ	しめ	しめ	しむ
れよ	る	る	る	れ	れ	る
られよ	られる	られる	られる	られ	られ	られる
○	まほしけれ	まほしき	まほし	まほしかり	まほしく	まほしり
れ	れ	る	り	り	ら	り
ざれ	ざれ	ざる	ず	ざり	ざり	ず
○	め	む	む	○	○	む
○	むすれ	むする	むず	○	○	むず
○	じ	じ	じ	○	○	じ
○	ましか	まし	まし	○	ませ	まし

ば	仮定条件	接助
（ずて）		
（ばや）		
（なむ）		
（なな）		

連用形に接続						基本形
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
○	たけれ	たき	たし	たかり	たから	たし
ね	ぬれ	ぬる	ぬ	に	な	ぬ
（たれ）	たれ	たる	たり	たり	たら	たり
てよ	つれ	つる	つ	て	て	つ
○	けれ	ける	けり	○	（けら）	けり
○	しか	し	き	○	（せ）	き
○	けめ	（けん）けむ	（けん）けむ	○	○	けむ

て	接助
して	接助
つ	接助
ながら	接助
そ	接助
にしがな	接助
てしがな	接助

終止形に接続(ラ変には連体形)						基本形
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
○	なれ	なる	なり	（なり）	○	なり
○	べけれ	べかる	べし	（べかり）	（べから）	べし
○	まじけれ	まじかる	まじ	（まじかり）	（まじから）	まじ
○	めれ	める	めり	（めり）	○	めり
○	らめ	らむ	らむ	○	○	べし
○	らし	らし	らし	○	○	らし

や	（文末係助詞）	終助
な	終助	
と	接助	
とも	接助	
と	接助	
と	接助	

連体形(体言)に接続						基本形
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
なれ	なれ	なる	なり	に	なら	なり
たれ	たれ	たる	たり	と	たら	たり
○	○	ごとき	ごとし	ごとく	○	ごとし

を	格助詞
に	格助詞
が	格助詞
もの	格助詞
に	格助詞
すら	格助詞
か	格助詞
かな	格助詞

已然形に接続						基本形
命令	已然	連体	終止	連用	未然	
れ	れ	る	り	り	ら	り

ど	和た	接助
ば	確定条件	接助
ども	接助	
や	（文末係助詞）	接助
（も）		

のみ	副助詞
ばかり	副助詞
まで	副助詞
など	副助詞
しも	副助詞
がな	終助詞

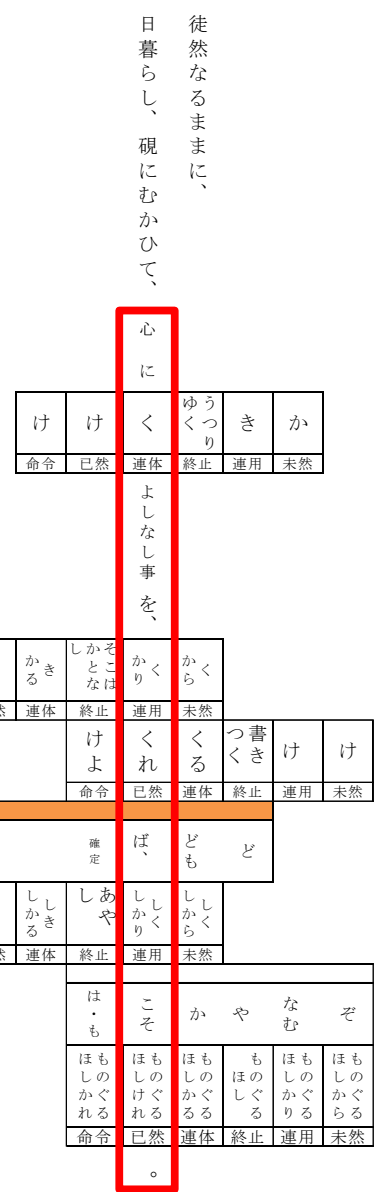
もが	終助詞
もがな	終助詞
もがも	終助詞
や	副助詞
切れ字	副助詞
よ	副助詞
を	格助詞

を	格助詞
の	格助詞
に	格助詞
に	格助詞
へ	格助詞
より	格助詞
から	格助詞

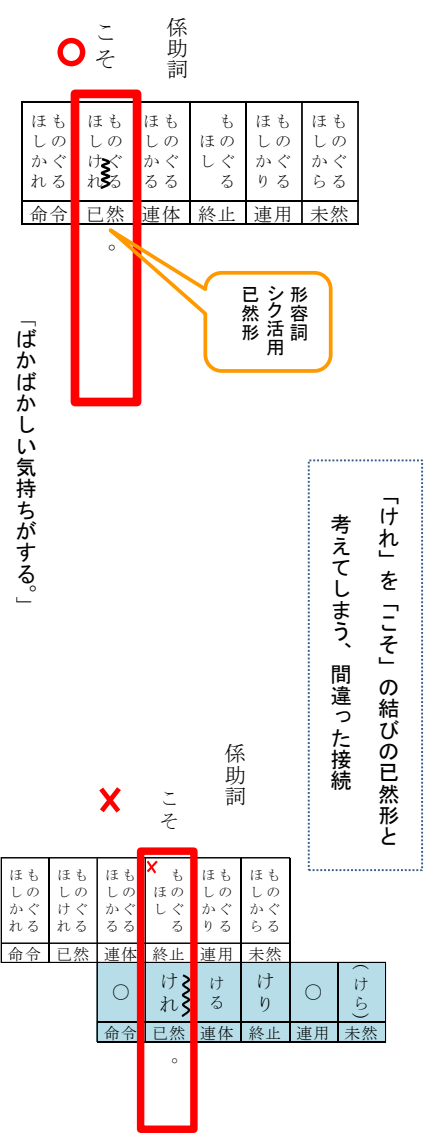
ぞ	（文中）	終助詞
なむ	（なむ）	終助詞
や	（文中）	終助詞
か	（文中）	終助詞
こそ	（文中）	終助詞
も	終止形	終助詞

使用例 一

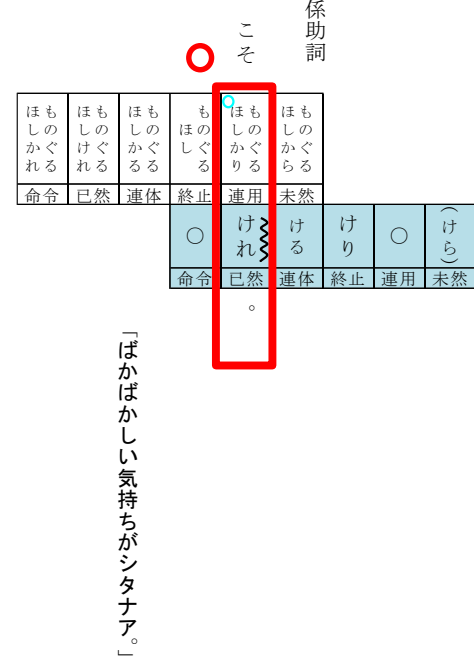
「徒然草」冒頭を「古典文法器」で示します。



「あやしうこそものぐるほしけれ。」は形容詞、已然形一語であることを「古典文法器」で示します。



青色の伝聞過去・詠嘆の助動詞「けれ」ならば、連用形に接続することを示します。



使用例 二

「土佐日記」序文を「古典文法器」で示します。

「すなる日記」と「するなり。」の識別を一目で表示することができます。

せよ	すれ	する	す	し	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	○	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

日記と

へ	へ	ふ	言ふ	ひ	は
命令	已然	連体	終止	連用	未然

ものを、をんなも

せよ	すれ	する	す	し	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然

てにしがな	そながら	つつ	して	て
命令	已然	連体	終止	連用

みよ	みれ	みる	みる	み	み
命令	已然	連体	終止	連用	未然

とて、

せよ	すれ	する	す	し	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然

なれ	なれ	なる	なり	なり	なら
命令	已然	連体	終止	連用	未然

○桃色の伝聞・推定の助動詞「なり」は、終止形に接続することを示します。

○緑色の断定の助動詞「なり」は、連体形に接続することを示します。

せよ	すれ	する	す	し	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	○	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

をとこも

「すると聞く、書く」と聞く、「

せよ	すれ	する	す	し	せ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	なれ	なれ	なる	なり	なら
	命令	已然	連体	終止	連用

とて

「するのである。書くのである。」

使用例 三

四段活用・尊敬語「給へ」+「る」の識別。プレートが2枚重ねて入れられます。

へ	へ	ふ	給ふ	ひ	は
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	○	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

下二段・の未然形に接続しない。

○	ふれ	ふる	(給ふ)	へ	へ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	なれ	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

下二段の未然形に接続しない。

○	ふれ	ふる	(給ふ)	へ	へ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	なれ	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

下二段の未然形に接続しない。

○	ふれ	ふる	(給ふ)	へ	へ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	なれ	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

下二段の未然形に接続しない。

○	ふれ	ふる	(給ふ)	へ	へ
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	なれ	なれ	なる	なり	なり
	命令	已然	連体	終止	連用

下二段の未然形に接続しない。

未だ変の未然形に接続。

「けむ」「けれ」「し」「しか」「す」「せ」「たり」「て」「と」「とも」「な」「なむ」「なり」「に」「にて」「ぬ」「ね」「ば」「ばち」「ちむ」「る」など同音識別の説明にご利用ください。

使用例 四

敬語の並び順が決まっていることを示すときに、応用します。
助動詞と重なるときは使いません。

見よ	見れ	見る	見る	見	見
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	れ	れ	る	り	ら
命令	已然	連体	終止	連用	未然
	へ	へ	ふ	給ふ	ひ は
命令	已然	連体	終止	連用	未然

				社 ^{むね} ど			
れ	れ	る	承 ^{うけ} る	り	ら		
命令	已然	連体	終止	連用	未然		
			侍 ^う れ	侍 ^う れ	侍 ^う る	侍 ^う り	侍 ^う り
			命令	已然	連体	終止	連用
				ど、			

敬語の並び順

- 黄色 謙譲語・間接尊敬
- 青色 尊敬語・直接尊敬
- 緑色 丁寧語・聞き手尊敬

使用例 五

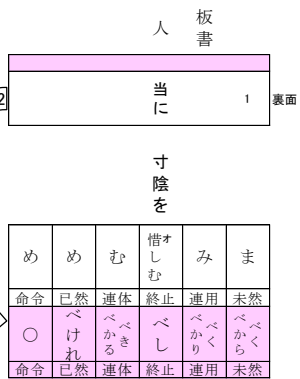
漢文書き下し文も古典文法の助動詞・助詞の接続、係り結びに基づくことを示します。

再読文字

「人当^ま惜^も寸陰^{ひととせ}を。」

「人^ま当^まに寸陰^{ひととせ}を惜^もしむべし。」

○ 桃色プレートの裏に「読目の」^ま「当^まに」と書き、表に返して再読する「べし」の活用を示すと、効果的です。



- 「未^{いま}だ」なら、黄色プレート「す」
- 「將^まに」なら、黄色プレート「む」と「と」+ 白プレート「す」
- 「猶^{なほ}」なら、「の」+ 緑プレート「たり」
- 「蓋^{なん}ぞ」なら、黄色プレート「ず」を係り結び連体形「む」の「に」。

二重否定

「父母之年不可^な不知^ら也。」 「父母の年は知ら^らざるべからざるなり。」

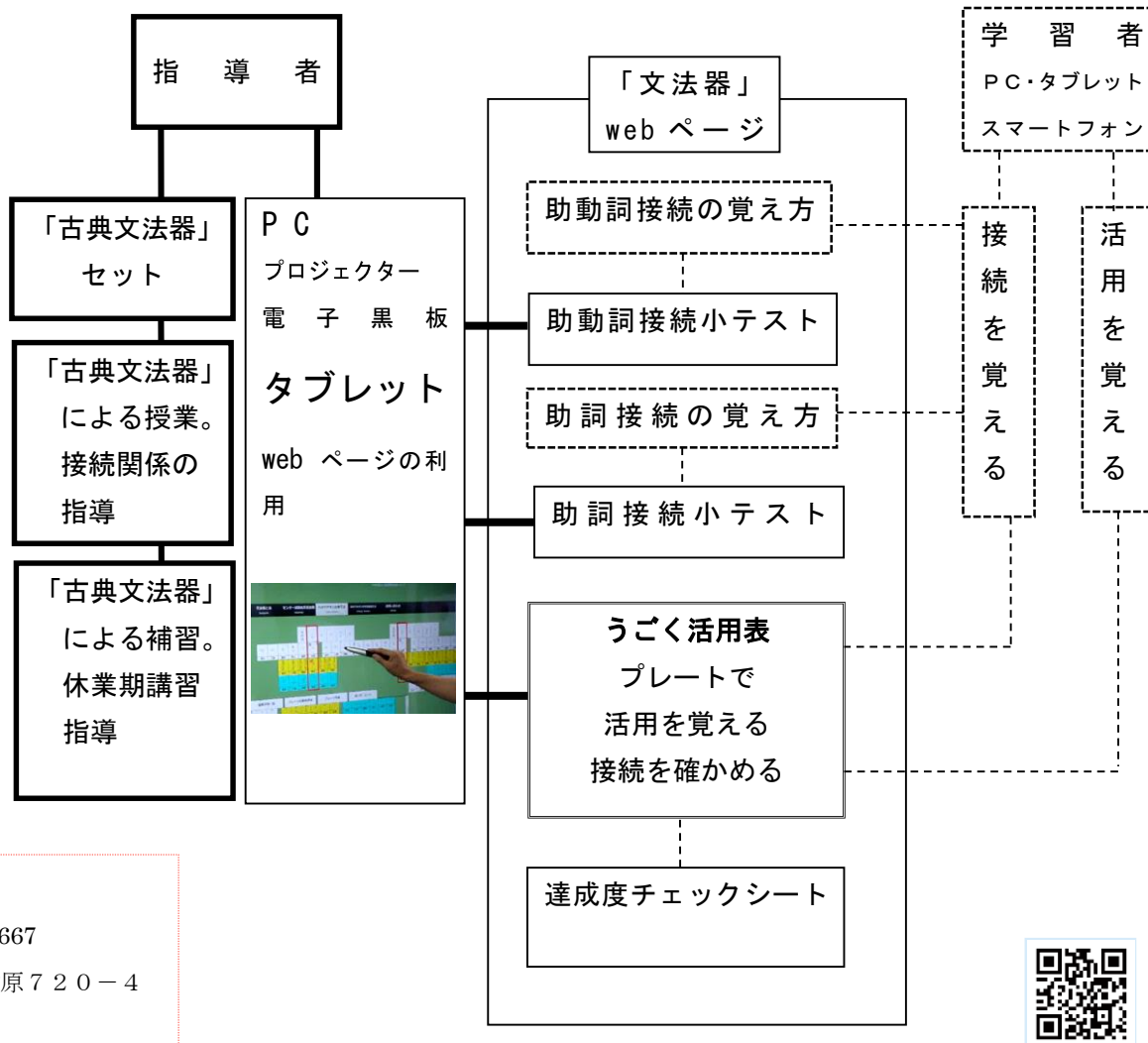
	知ら	板書							
	未然								
	ざる	ざる	ざる	ざる	ざる	ざる	ざる	ざる	ざる
命令	已然	連体	終止	連用	未然				
	べし	べし	べし	べし	べし	べし	べし	べし	べし
命令	已然	連体	終止	連用	未然				
	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり
命令	已然	連体	終止	連用	未然				

カラープレートの助動詞は、全てひらがなで書くことがわかります。

	れ	れ	る	知 ^ら る	り	ら			
命令	已然	連体	終止	連用	未然				
				べし	べし	べし	べし	べし	べし
命令	已然	連体	終止	連用	未然				
	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり	なり
命令	已然	連体	終止	連用	未然				

2枚の「不」プレートを外し、否定を否定する意味が、肯定（当然）になることを示せます。

さまざまに工夫してご利用ください。



文法器
 TEL0465-43-2667 Fax 0465-43-2667
 〒256-0803 神奈川県小田原市中村原720-4
<https://bunpouki.com/>

「古典文法器」は、活用を横向きに表示し、接続関係を色で示した教具です。
 文法器は、ホームページで学習支援をしております。
 「うごく活用表」はデジタル世代に向けたweb ページです。
 webで覚える学習コンテンツです。「古典文法器」をweb上で再現しております。
 プロジェクター・電子黒板・タッチディスプレイ・タブレットでご利用ください。